

令和3年12月22日

由利本荘市総合教育会議

議 事 録

□日時

令和3年12月22日（水） 午後1時30分

□場所

広域行政センター 特別会議室

□出席者

市長	湊 貴 信
教育委員会教育長	秋 山 正 毅
教育委員会教育長職務代理者	桑 山 明 久
教育委員会委員	佐 藤 道 昭
教育委員会委員	高 橋 重 剛

□案件

1. 報告

- (1) 由利本荘市の教育振興に係る主要施策について（令和2～3年度）
- (2) 令和9年度の児童生徒数について

2. 意見交換

- (1) 主体的・協働的・個別最適な学びの基盤となるICT教育の推進について
- (2) 「由利本荘市教育研究所」の機能強化について

(事務局職員)

総務部長	小 川 裕 之
教育次長	三 浦 良 隆
総務部次長兼総務課長	小 松 等
教育委員会教育総務課長	阿 部 良 博
教育委員会主幹兼学校教育課長	土 倉 新 也
教育委員会生涯学習課長	長谷川 潤 一
教育委員会スポーツ課長	伊 藤 望
教育委員会主幹兼中央図書館長	松 永 美貴子
教育委員会本荘教育学習課長	渡 部 正 人
教育委員会教育総務課参事兼課長補佐兼総務班長	佐々木 夢 司
総務部総務課参事兼課長補佐	加 藤 弘 貴

小松総務課長

間もなく予定の時刻となりますが、開会前に報告がございます。教育委員の小坂綾子様ですが、本日所用により欠席の連絡がございました。以上であります。

(開会 午後1時30分)

ただ今から「令和3年度由利本荘市総合教育会議」を開会いたします。はじめに湊市長よりごあいさつをお願いします。

湊市長

開会にあたりまして、一言、ごあいさつ申し上げさせていただきます。本日は、大変お忙しいところ、会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また日頃より市政発展のために、ご尽力、お力添えいただいていることにこの場を借りて御礼申し上げます。さて、私事ですが、この4月に由利本荘市長として、就任させていただきました、早いもので8カ月となりました。就任以来、いろいろと目の前にある課題等にも積極的に取り組ませていただいておりますが、中でもやはり一番は現在も続いている新型コロナウイルスへの対応であります。ワクチン接種等々の事業もございましたし、市内の経済が打撃を受けているということもありまして、それらの対応であったり、様々やらせていただいておりますが、ここにきて、コロナも落ち着いてきている状況となってまいりました。ワクチンについては三回目の準備を進めているところでありますが、これからはいわゆるウィズコロナ、アフターコロナと言われておりますこの後の生活を見据えて進めているところであります。よく言われておりますアフターコロナ、ウィズコロナですが、私たちの仕事もそうです。いろいろな会議がリモートで行われていたり、また、決済がキャッシュレスになったりですとか、考えてみますと、ITが加速していく時代になっていくのかなあと思っています。市政におきましてもDX推進監を中心として、自治体DXを積極的に進めておるところであります。この後子どもたちの教育現場においてもDX、ITの技術を身につけてもらうことを今後進めていかなければならないと考えております。本日の協議案件でもある、主体的、協働的、個別最適な学びの推進であります。いよいよ学校でもICTに関する事、また教える先生たちの技術や環境を整えることも大事な事と考えております。本日の会議の中で話が出るかと思っておりますので、皆様から忌憚のないご意見を聞きながら、よりよい会議になればと思っております。私にとりましては、初めての会議ということもありまして、勉強させていただき気持ちを入れまして参加させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

小松総務課長

ありがとうございました。

本日、司会を務めさせていただきます、総務課の小松と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、会議の進行についてであります、協議を約一時間といたしまして、終了時間を二時三十分頃と予定しておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

本日の案件は「報告が二件」と「意見交換」であります、意見交換につきましては、はじめに担当から話題提供をいたしまして、終わりましたら、秋山教育長をファシリテーターとして、教育委員の皆様と湊市長からご自由に意見を頂戴したいと考えております。

それでは、次第に従いまして、報告に入ります。はじめに由利本荘市の教育振興に係る主要施策について（令和2年から3年度）につきまして、次に、令和9年度の児童生徒数について続けて三浦教育次長から説明いたします。なお、ご質問等はまとめてお受けしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

三浦教育次長お願いします。

三浦教育次長

【（1）由利本荘市の教育振興に係る主要施策について（令和2～3年度）、（2）令和9年度の児童生徒数についてについて説明した】

小松総務課長

説明が終わりましたが、皆様からご質問やご意見はありますでしょうか。

【質問、意見等特になし】

それでは次に「意見交換」に入りますが、はじめに話題提供といたしまして、「主体的・協働的・個別最適な学びの基盤となるICT教育の推進について」土倉主幹兼学校教育課長から説明をお願いします。

土倉主幹
兼学校教育課長

【主体的・協働的・個別最適な学びの基盤となるICT教育の推進について説明】

小松総務課長

説明終わりましたが、ここからの進行は、秋山教育長にお願いいたします。

秋山教育長

この度の総合教育会議ですが、次第に設置要綱の抜粋を載せてあります。囲み部分をご覧ください。会議の狙い、目的は3つありますが、2つ目にありますとおり、教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策について、この場で市長と話し合い、方向性を決定、それを教育委員会が執行機関として計画立案していくというのが本来の目的の一つであります。今の説明を基にして、市長、委員の皆様から自由な意見を頂きながら方向性を見いだせればと思いますのでよろしくお願いいたします。ご意見等ありませんか。

佐藤委員

初めによろしいですか。確かにこれから国民総タブレット時代とでも申しませうか、ICTの活用が増えてくる時代になりつつありますので、子どもたちにもプログラミングの授業を進めていくことは大変良いことと思っております。そのためには学校、大学、産業全てのものを含みながらの準備が大切だと思います。是非進めて欲しいと思っております。ただ、昔は調べることによって覚え、何度も書く事によって覚えてきました。現在は私もパソコンやタブレットを使うようになりました。年齢のせいもあるでしょうけれど、すぐに忘れるようになってしまいました。その代わり何時どんなときでも調べれば答えが出てくるということもあるのですが、それを見込んでタブレットを活用した教育に進んでいくのか、あるいは昔ながらのものを書き、紙媒体で一生懸命調べるというのも捨てずに残しながら両方を上手く活用していければと思うのですが、どちらの方向へいくのだろうかというのが感想であり、質問でもあります。

秋山教育長

佐藤委員から、今までのペーパーによるものと、ICTを使った両立というお話がありました。これについてご意見等ありませんか。

湊市長

これにつきまして、教育長はじめ教育委員の皆様で考えていただきたいところではありますが、最近私も会合のあいさつ等タブレットを見ながら行っておりますし、ペーパーを使用しないようになってきております。タブレットの良さもちろんありますが、何かを見ながら別のことをするのができない時があります。ペーパーレスと言いつつ、日々ペーパーが必要だと感じることがあります。また、佐藤委員おっしゃるとおりタブレットを使うようになって文字を書くことが減りました。完全なペーパーレスはハードルが高いと感じています。将来も両方使っていくことになるのではないのでしょうか。

秋山教育長

高橋委員いかがでしょうか。

高橋委員

個別最適な学びということで3つのイラストと説明（生徒の学習力に応じて、AIが基本的・標準的・発展的問題を選択して出題する）が資料にありますが、私の子どもの頃の記憶なのですが、数学の授業で早く問題が解けて、時間に余ってしまうことがありました。そんなとき先生がプリントを用意してくれていて、それを解くのがとても楽しかったのを覚えています。申し上げたいのは、AIがあなたの解くべき問題はこれですと言ったところで、人を動かすのは、やはり先生の人間性でありそれが教育だと思います。当然のことと思いますが、技術面で推進する一方でこういったバックボーンを忘れて欲しくないと思います。資料の右側の子（学習力が標準未満の生徒）も手を差し伸べるのは結局アイパッドではなく、先生だと思います。この辺の意識を常に持って欲しいと思います。もう一

点お話ししたいのが、主体的・協働的・個別最適な学びと並べられておりますが、先生方は当然言われると思いますが、1年に一回行く私にとってはほぼ呪文にしか聞こえないです。細かい文章を読み解くと生徒の目がきらきらしている授業は意欲的、主体的であって、隣の子ともすごく内容のある話しをしています。またクラスによっては話しているようで、何も話していないところもある。こういったところで修練していく、目がキラキラしていく、また先生も共有できているかが学問で、バックボーンは大事にして推進していただきたいと思います。

秋山教育長

桑山先生いかがでしょうか。

桑山教育長職務代理者

まず最初に、由利本荘市の教育で主体的でという志です。主体的というのはとても大事なことなのですが、これを育てるのは大変難しいものです。実際人間は自分のことであれば自分で決めて、実行して、失敗しても成功しても全て受け止める。そういう訓練が日本の子どもは学校教育のなかでどこまでできていたかと思うのです。医療の世界では、パターナリズムという言い方があります。医者が全て決める。あなたはこの薬を飲み、こういう検査をしると全て決めてしまうパターナリズムと、医者が情報を提供して、患者が決めるインフォームドコンセントがあります。私の診療スタイルはなるべく後者を採っています。患者さんの中には、先生が検査をした方が良いと思うのならそう言ってくださいという方もいますし、先生がそういうことを言うのは、検査をすることにどんな意図があるのですかと言う患者さんもいます。これが良いのです。そうすれば医者はきちんと説明もできます。聞きたくない患者さんもいます。大人の患者さんにも自分で考えて決めることを投げかけられたときに戸惑う人もいます。ある中学校で一日好きな服装で登校してもいい日を設けたらどうでしょうと言ったら、校長先生は良いですねと言ってくれたことがありましたが、一日だけならよくても何日も続けてみたら、おそらく保護者から不評が出るのではないかと思います。でもやってみたら面白いと思います。そもそも何かの規則に従ってそのとおりにやっていくというのが良いのだと、子どもたちに強く根付いてしまっているのではないのでしょうか。その中で主体的にということが一番にあげているわけですから、その主体性を育てるために、日頃の中で、授業の中で思ったことを自由に言いなさい。あるいは自分で課題を見つけてそれを追求してごらんというほかに、自分で決めてその責任を自分でとるということの訓練が、どのようにできたらよいのかなと考えています。主体的であり、協働的あるいは対話的ということが、ほかの人の意見や決めたことも尊重し、ぶつかったらよく話をして、自分の考えを修正して新たに決めるという訓練が入っているのだらうなあとと思います。少しICTから外れてしまいましたが、そのことを考えながらICTの教材にどのよう

なものを使うのか、教師がどういう役割をもって教材と生徒の橋渡しをしていくのか。ただ、あなたたちタブレットの問題をやらせたら、できる子はこれ、自信ない子はこれ、全然分らない子はこっちをやらせたらということだけで終わってしまうと何のためのタブレットなのかなあと感じてしまいます。たしかに良いアイデアで、教師の負担も減らせるし、効率の良い学習ができると思いますが、その中で教師の役割をしっかりと確認していただければと思います。それから、あるところから寄せられた情報で、タブレットが生徒には配られているが、教師にはないため、私物で対応しようとしたが、上手く接続できなかったということでした。是非先生にも生徒と同じタブレットを配布する配慮が必要ということでした。効率よく使っていくためには、その辺の配慮も必要だと思います。

秋山教育長

これまでの意見の中で、ペーパーとタブレット双方の良いところを確認しながら上手に融合させるのが大切だということ。またAIが導入されても、先生の働きかけが必要だし、そこには先生の思いが当然入ってくるということ。主体的というのは今までの学習より、ICT導入により確実に自己決定する場は多くなると思いますが、上手く組み合わせていくことが大切だというお話をいただいたと思います。では、先生の役割は何なのかということを引きちんと考えないといけないと思います。ただICTを導入しただけでは子どもたちが生き生きと学べないのだということを感じました。これまでの皆様の話を聞いて、湊市長いかがですか。子どもたちが自信を持つために、何か評価されるものが欲しいのではないかと、どんな子どもたちになったら、由利本荘市がICTを頑張っていると言えるかというとき、私はITパスポートを中学生くらいで取得できるようになったらよいのかなと思ひまして、資料に掲載いたしました。市長いかがですか。

湊市長

答えになるかどうか、少し外れるかもしれませんが、これから子どもたちに身につけて欲しいスキルとして、英語とITの力はすごく大事だなと思います。もちろん将来、英語やITを全く使わない職業に就く子ども大勢いらっしゃると思いますが、ITについて苦手意識がない子は、将来の職業選択の範囲が広がるだろうと思います。そういったことも含めて由利本荘市の子どもたちには是非、ITの力をほかの市町村の子よりも多く持つことができる教育を進めていくことができればよいなと思ひしております。教育長が言いました、試験とか資格につきましても、こういった目指すところがあれば、よい効果もあるのではないかと。目に見える目標として資格を目指すということは大事なことだと思います。ただ今漠然とIT知識という言葉を用いましたが、この知識を活用しない仕事に就いたとしても、例えば職場のパソコンに不具合が生じたとき、詳しい職員が居たりして、職場内で解決するケースがよくあると思います。そうい

った場面で頼りにされるのが皆、由利本荘市出身の子どもたちであったらいいなと思います。大変ぼんやりとした話ではありますが、そんな子どもたちを育てていけないだろうかと常々考えております。そのためにはITへの苦手意識を無くすことや、目指すべき所を明確にすることは大事だろうなと思います。思いとしては、どこの市町村にも負けない、由利本荘市の子はちょっと違うな。詳しい子が多いな。と言われるようになったらうれしいと思います。本日は教育会議ですので、今の話は少し先の部分が大きいのですが、私が市長として考えるのは、人口減少対策として、移住定住、少子化対策でありまして、由利本荘市の子どもたちに対する教育が、一つのモデルケースとなって、子育てするなら由利本荘市に住もうというように、移住定住に繋がるところまでいけたらいいなというのが私の頭の中にはあります。また、県立大学と連携したり、関係して同化していくことは、おそらく由利本荘市でなければできないことだと思います。こういったポテンシャルをフル活用して、子どもたちのために持てる力を発揮していけたら良いと思っています。先ほどのお話から、もし予算が許すのであれば生徒用タブレットと同じものを先生も持つべきだと思います。生徒と先生が同じ環境でなければ不都合もあろうかと思いますが、検討していただきたいと思います。

秋山教育長

お子様をこれから小学校に入学させようとしている高橋委員どうですか。由利本荘市の教育を受けさせたいと思いますか。率直なご意見をどうぞ。

高橋委員

正直なところまだわかりませんが、ITや情報などに敏感なのは良いのかなと思っておりまして、本日感じましたのは、資料の小・中23校での、情報モラルの向上、情報発信力の向上、ICT活用力の向上、プログラミング能力の向上につきまして、はじめの二点は情報リテラシーに関わるもので、後二点はスキルに関わるものと理解しました。私が日頃業務において情報について思うのですが、過程において他人の意見を聞いて、自分で意思決定するのが主体的ということだとすれば、重要なのは情報の量と想像力だということです。情報量という観点からすれば、簡単に手に入る情報というのがいかに歪んでいて、一方的でいい加減なものだと感じております。そういった意味で情報弱者になって欲しくないと思っています。情報の受信力を高めてほしい。自分から取りに行く力が必要だと思います。

秋山教育長

由利本荘市の教育を新しいお父さん、お母さんにきちんと説明できないと、いったいどういう教育を行っているのかと批判されてしまいますので、そこは私たちがきちんと詰めていかななくてはならないと思っています。では次の話題に移りたいと思います。

小松総務課長

それでは、次の話題提供といたしまして、「由利本荘市教育研究所の機能強化について」土倉主幹兼学校教育課長から説明をお願いします。

土倉主幹
兼学校教育課長

【「由利本荘市教育研究所」の機能強化について説明】

小松総務課長

説明終わりましたので、再度ここからの進行は、秋山教育長にお願いいたします。

秋山教育長

これについて市といたしましては、説明の通り集約する方向で進めたいと考えております。委員の皆様から質問、ご意見を頂ければと思います。

桑山教育長職務代理者

本荘ふれあい教室には、設立前から関わっております。由利本荘市では良い事業を行っていると評価しております。より手厚い支援をお願いしたいと思っております。子どもの問題について、どこに相談すればよいのか、ふれあい教室なのか、子育て支援課なのか、または国が新たに設置する子ども家庭庁なのか。子ども家庭庁の施策が市役所のどの部門になるのかを見据えて、どこまでを教育委員会の中の教育研究所が受け持っていくのかということもあります。が、是非情勢を見ながら相談の充実をさせていきたい。

佐藤委員

適応指導教室（本荘ふれあい教室）ですが、それこそ子どもたちの個別最適化の一つだと思います。私、最適化という言葉があまり好きではないのですが、子どもたちを最適化するのではなく、最適なものを選んであげる、見つけてあげるという場であってほしいと思います。そのためにもこれを充実させてほしいと思いますし、また科学とかプラネタリウムもその一つです。先ほど言いましたのも、書くのも子どもの最適化でもありますし、またICTを使える子ども、それが最適な子どももいるということで、両方を上手い具合に使って欲しいというのが一つだったのです。これをやるためには、教師の負担も大きくなってきますし、サポートの教師を充実させてほしいと思います。経費もかかることですし、市全体として補助をしながら各学校にサポートの先生を付けていただきたいと思っております。また、今後子どもの数が少なくなっていくと思いますが、子どもたちを支えるために地域に学校を残して欲しいというのが私の思いであります。小中学校が一緒になった義務教育学校として残していく方向も考えてほしいと思っております。

高橋委員

現在の三機関がどのようなことをやられていて、どのような課題をお持ちなのかわかりませんので、的外れな発言となるかも知れま

せんが、いずれあるべき姿に変更していくというのはそのとおりだろうと思います。教育相談とか、ICT教育は専門性が要求されると思いますので、どういった方が就かれるのか、先生なのか、カウンセラーなのかこの辺を詰めていかななくてはならないと思います。また、弁護士の立場として申し上げますと、早いところではスクールロイヤーを取り入れているところもあります。それがここに入る話なのかどうか分かりませんが、弁護士による保護者対応をしていくことをこれから検討してはどうかと思っております。

湊市長

異論ありません。手を貸してあげないといけない子どもたちも多様化しているところがあります。手を差し伸べる側の体制や在り方も当然変わっていかねばなりませんし、効率的なことだったり、より深めることは大事な事と思います。良い形でやっていければと思っています。

秋山教育長

教育相談というところで、クローズアップしているのは、学校にカウンセラーが入って、子どもたちは勿論ですが、保護者のカウンセリングを受けるケースが増えています。困りごとや悩みで行き詰まっている保護者がたくさん居て、でも保護者の中には学校に来るといのはハードルが高いと思う方もいらっしゃるの、受け皿が必要だろうなと思います。子育て支援課にもありますが、まだ教育研究所との連携は十分でないと感じています。子ども家庭庁がどんな機能を持つことになるかまだわかりませんが、そこをにらみながら組織を充実させていきたいと思っています。市長部局と連携をとらなければならぬと思っています。

湊市長

少しよろしいですか。情報の話に少し戻りますが、先ほど情報の受発信が大事だということについて意見がありました。市では最重要課題に六つの施策というのを組み立てさせていただいた中で、情報を出すことについて、アナログも大事にしつつという文言も入れてあります。アナログというものには紙媒体ということも頭にありますが、情報の伝達の中で大事なものがロコミであって、いろんな場面でいろいろな方に話題にしてもらうことは大事だと思っています。あまりこんな話をしたことはなかったのですが、私は道川小学校、岩城中学校のPTA会長を務めさせていただきました。どちらだったかの卒業式のPTA会長あいさつで、子どもたちに言ったことがあります。情報化社会で生きていくには、情報を得ることも大事だけれども、情報を出す技術も大事だという話の中で、世の中に情報が溢れているということは、それだけ発信している人がいるということなので、自分が情報を出せないと埋もれてしまうということを伝えました。また実際に話した例ですが、「走るの早いですか」と問われた野球部の子が、「普通には走れるけれどな」と答えると、この人は走るのがそんなに得意ではないのだと受け止めら

れてしまいますが、「走るの苦手だか野球は得意だ」と答えると、野球が得意な人だと認識される。走るのが苦手な人と覚えられるのと、野球が得意な人と覚えられるのでは大違いだという内容でした。情報の出し方はこういうことだと思います。機器の使い方だけでなく、自分のことを分かってもらうための発信の仕方也很重要だと思います。

小松総務課長

皆様から沢山のご意見をいただきました。ありがとうございました。最後に、秋山教育長からあいさつを申し上げます。

秋山教育長

たくさんのご意見ありがとうございました。昨年度から今回のような総合教育会議を行いたいと考えておりました、実現できて嬉しかったです。今回は60分の会議でしたが、時間が足りなかったと感じました。今後はもっと長い時間を確保して行うことができたら良いと思いました。本日の説明やご意見を伺って、由利本荘市はもの造りの生産拠点として頑張っているが、ソフト的なものの生産者がいない。ICTを進める上で、ものを生産する中にもっとソフト的なものが含まれていけばより活性化するのではないかと思います。そういった意味でもICTを進めていきたいと思っておりますし、いろんな子どもたちを支える環境作りとしての教育センターの強化も進めていきたいと思っております。今日お話しいただいたことを、今後の教育委員会の施策に生かしていきたく思いますのでよろしくお願いたします。本日はありがとうございました。

小松総務課長

ありがとうございました。

予定した時刻を若干経過しておりますが、事務局から連絡事項等ありませんか。

【連絡等特になし】

それでは、これをもちまして、由利本荘市総合教育会議を閉じさせていただきます。大変おつかれさまでした。

【閉会 午後2時36分】